

新人事評価制度の目標設定に生成 AI「目標 Chat」を活用 ～AI を社員の壁打ち役とする新たな人財育成アプローチを確立～

矢作建設工業株式会社（本社：名古屋市、代表取締役社長 高柳充広）は、Luvir Consulting 株式会社（本社：大阪市、代表取締役 CEO 中川裕貴）の支援を受け、新たな人事評価制度において、社員が目標設定に生成 AI「目標 Chat」を活用するしくみを確立しました。これは、社員一人ひとりの自律的な思考と言語化を支援する手段として生成 AI を活用し、人財育成を加速させるものです。これにより、①目標の質を担保し、②社員に成長機会を提供するとともに、③目標設定の負荷軽減（年間で約 1,800 時間相当の工数削減見込み）を推進しています。



矢作建設



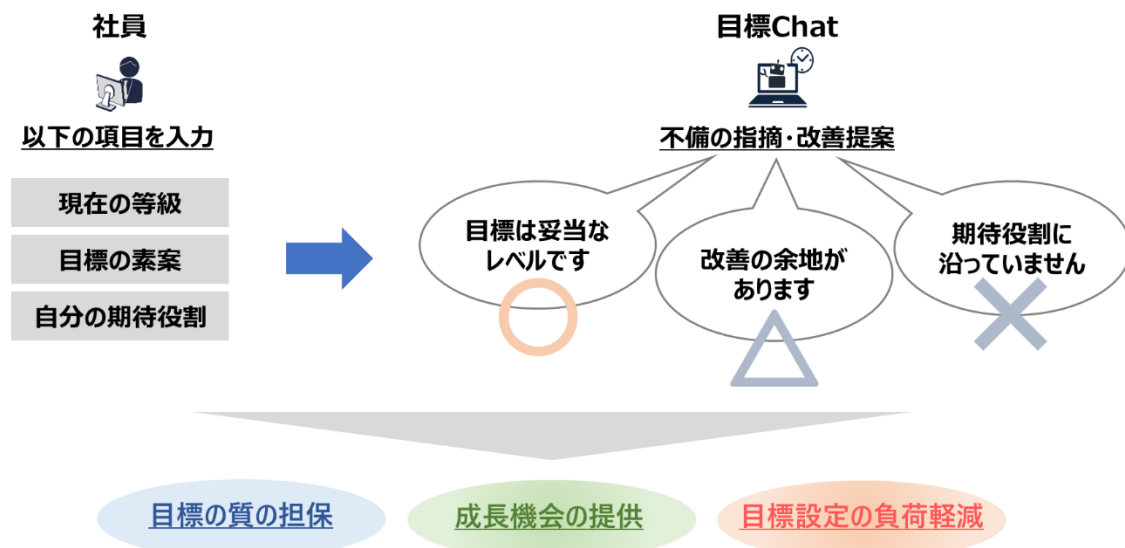
Luvir
Consulting

【制度改定の背景】

矢作建設工業株式会社は、事業環境の変化に対応するとともに、2030 年の目指す姿「課題解決&価値創造型企業」への変革を目指しています。この変革を実現するためには、社員一人ひとりが高い専門性を持って、自律的に自己の役割達成に向けて行動することが不可欠であり、その基盤構築のため、人・組織の課題解決を専門とする Luvir Consulting 株式会社と協働し、2025 年 10 月から新たな人事評価制度を導入しました。当該評価制度において社員が目標設定を行う際に、以下のとおり生成 AI「目標 Chat」を活用します。

【目標 Chat の活用方法と導入効果】

<生成 AI「目標 Chat」の活用イメージ>



1. 目標 Chat の活用方法

社員が目標 Chat に「現在の等級」「目標の素案」「自分の期待役割」を入力すると、当該目標が、①現在の等級として妥当なレベルか

②改善の余地がある場合は、ブラッシュアップした場合の具体例

③自分の期待役割に沿っているか

などが提示されます。

社員は、目標 Chat が示した内容をもとに、自分で内容をブラッシュアップします。

2. 導入効果

①目標の質の担保

目標 Chat は、評価制度やその基盤となる等級制度の形骸化を防ぐとともに、組織の目標達成に資する目標設定をサポートします。

例：全社的な視点が求められる管理職の目標が、「自部署に閉じたもの」であった場合
⇒等級基準に基づき、「全社的な目標」への修正のヒントを提示する

②成長機会の提供

目標 Chat は、社員が作成した目標案を洗練させる「壁打ち役」として機能します。

社員は、目標 Chat と対話しながら自分の目標をブラッシュアップすることにより、論理的思考力や抽象化・応用力といった、目標設定に必要なスキルを自律的に養うことができます。

③目標設定の負荷軽減

目標 Chat が目標の妥当性・網羅性を確認可能であるため、

社員が目標を検討する時間、評価者が目標を確認・調整する時間が大幅に短縮され、年間で約 1,800 時間相当の工数削減効果が見込まれます。

矢作建設工業株式会社は、自律的成長という育成の本質を追求する一環として、目標設定に生成 AI を活用することで、全社員の継続的な成長と、2030 年の目指す姿「課題解決&価値創造型企業」への変革を推進していきます。

以上